

株主のみなさまへ

第78期

中間報告書

2021年4月1日から2021年9月30日まで

トップメッセージ

中期経営計画

「Make Innovations Stage-II」の最終年度を迎えて

当中間期の発泡プラスチック業界におきましては、新型コロナウイルス感染症により、巣ごもり需要による食品容器関連の需要が継続しておりますが、各種部材や搬送資材・梱包材の需要の本格的な回復には至らず、また、原材料高騰の影響もあり、先行き不透明な状況が継続しております。

このような厳しい経営環境のなか、当社グループは新型コロナウイルス感染症に関して、取引先企業や当社グループ従業員の安全と健康を第一に考えると共に、新型コロナウイルス感染症に関するリスクを最大限、回避する対策を取りながら、本年度が最終年度となる3か年中期経営計画「Make Innovations Stage-II」の基本方針に掲げた「事業ポートフォリオの改革」と「収益体質強化に向けた戦略の実行」に取り組んでおります。徹底したコスト削減の継続や低収益事業の見直し、高付加価値事業への積極的な展開などの施策を全社一丸となり進めております。

また、環境リーディングカンパニーの位置づけを確固たるものとするため、2020年6月に公表した「SKG-5R STATEMENT」に掲げた目標達成に向け、SKG-5R^{*1}活動推進の一層の強化を図っており、今後も環境貢献製品（サステナブル・スタープロダクト）^{*2}の拡充を進めてまいります。

その結果、連結売上高は594億1千9百万円、連結営業利益は6億5千3百万円、連結経常利益は7億5千万円、さらに投資有価証券の一部売却に伴う特別利益4億5百万円と法人税等を加・減算し、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億3千6百万円となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」等を当期首から適用しており、当中間期の連結売上高は、適用前に比べて60億7千3百万円減少しておりますが、利益への影響はありません。

当中間期の配当につきましては、1株につき5円とさせていただきます。中間配当金の支払開始日は12月2日となります。なお、期末の配当につきましては、直近の連結業績予想を勘案し、17円から10円減配の7円を予定しております。

今期の見通しにつきましては、連結売上高1,190億円、連結営業利益16億円、連結経常利益16億円、親会社株主に帰属する当期純利益6億円を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

^{*1}「SKG-5R」は、SKGは積水化成製品グループ、

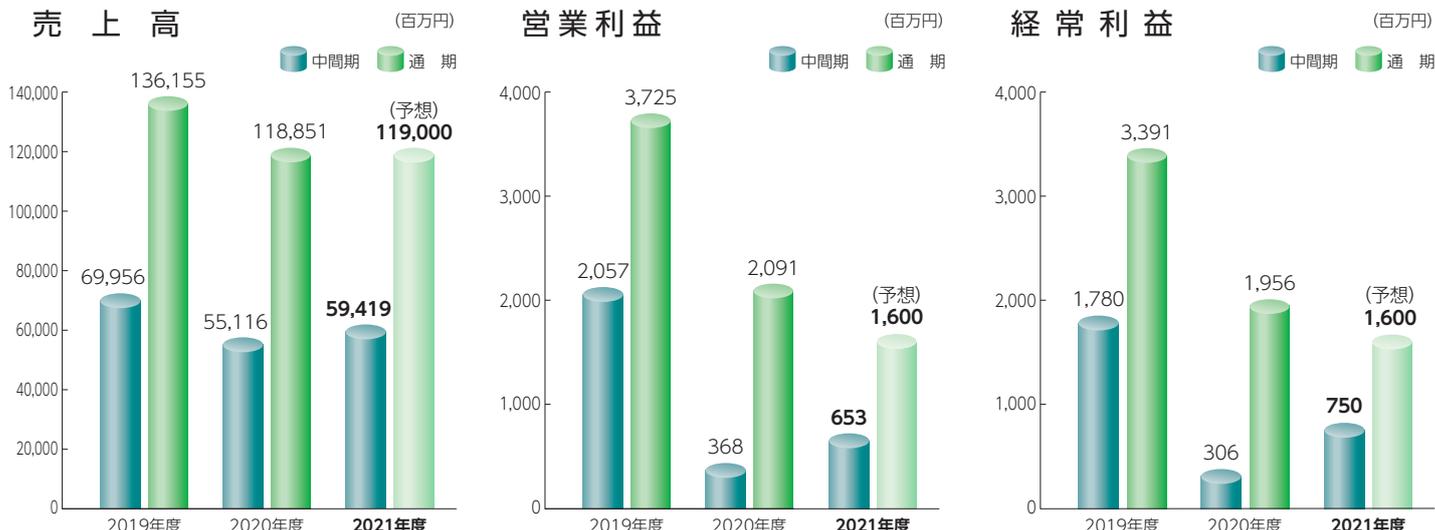
「5R」は、Reduce, Reuse, Recycle, Replace, Re-createを指します。

^{*2}「サステナブル・スタープロダクト」は、原料調達から製造・供給・廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体で、環境負荷低減や限りある資源に配慮した製品をいいます。

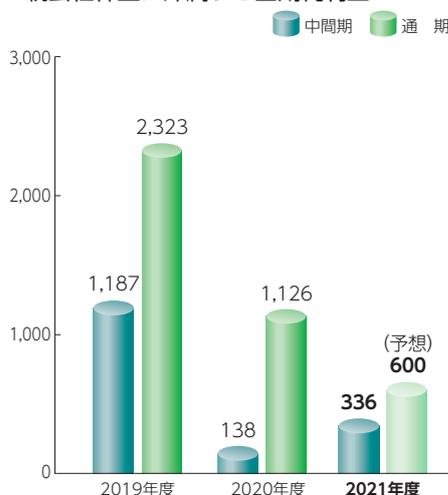
代表取締役社長 柏原正人



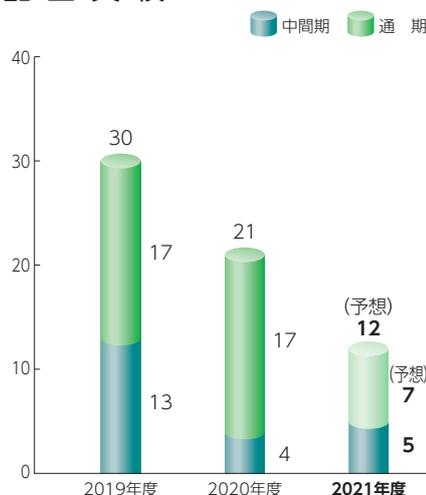
連結財務ハイライト



親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



配当実績 (円)



- ・当中間期は、新型コロナウイルス感染症の影響からは回復基調にあるものの、前年度からの原材料価格高騰やサプライチェーンの不安定な状況による自動車メーカー減産の影響もあり、前年対比は増収増益ながら、利益面では期初業績予想に対して下回る結果となりました。
- ・配当につきましては、連結業績の動向に応じ、かつ配当の安定性と内部留保のバランスを総合的に判断し、期末の配当予想を17円から10円減配の7円へ修正しました。

中間連結財務データ

■ 中間連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

資産の部	当中間期 (2021年9月30日現在)	前 期 (2021年3月31日現在)
流動資産	67,999	62,744
固定資産	93,071	95,694
資産合計	161,070	158,439

(単位：百万円)

負債・純資産の部	当中間期 (2021年9月30日現在)	前 期 (2021年3月31日現在)
流動負債	51,368	43,305
固定負債	40,509	44,475
負債合計	91,877	87,781
純資産合計	69,193	70,657
負債・純資産合計	161,070	158,439

■ 中間連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

	当中間期 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	前中間期 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	59,419	55,116
営業利益	653	368
経常利益	750	306
親会社株主に帰属する中間純利益	336	138

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

	当中間期 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	前中間期 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	939	779
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,296	△ 1,969
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,796	1,266

2021年度中間期の事業別概況 (連結)

生活分野 (ヒューマンライフ)

売上高23,794百万円
売上構成比40.0%

食品容器関連は、新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛やインバウンド需要の減少は依然として継続しておりますが、内中食関連向けは昨年からは落ち着きが見られるものの堅調な状態が継続しております。農産関連では、期初は堅調な出荷も、夏場に長雨など天候不良の影響を受けて前年並みの結果となり、水産関連では、依然、外食産業の影響を受け低調な出荷となりました。また、土木関連では、道路冠水対策や雨水処理用途で採用されている「アクアロード」や下水道工事などで採用されている「FJリング」で物件獲得が進みました。主力製品である「エスレンシート」の売上数量は、巣ごもり需要が引き続き旺盛で、スーパー等の生鮮食品用トレーや総菜向け食品容器用途を確実に取り込み、テイクアウト容器用途の需要も継続しましたが、全体としては好調であった前年同期並となりました。「エスレンビーズ」の売上数量は、消費者の在宅時間の増加によりクッション用ビーズなどのライフグッズ用途が好調を継続、また建材土木分野も好調となり前年同期に比べ増量となりました。



「収益認識に関する会計基準」等を当期首から適用しており、当中間期の売上高は、適用前に比べて40億8千9百万円減少しております。

工業分野 (インダストリー)

売上高35,624百万円
売上構成比60.0%

自動車関連では、部品梱包材用途が電動部品関連で販売が伸長したものの、自動車部材用途が半導体不足に加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う部品調達遅延による自動車メーカーの減産の影響を受け、「ピオセラン」の販売は伸び悩みました。Proseatグループについては、主力商品の自動車関連部材に用いる原材料の昨年から価格高騰の影響と半導体不足などサプライチェーンの混乱により欧州自動車メーカーからの大幅な受注減少の影響を受け、業績回復に遅れが生じています。

家電・IT関連では、パネル搬送資材・梱包材用途での「ピオセラン」は、液晶パネルの需要が伸長し、堅調に推移しました。「テクポリマー」は液晶パネル等の光拡散用途として、在宅勤務等によるPC・モニターの需要増などで、売上堅調を維持しております。

医療・健康関連では、ワクチン接種が進む米国や欧州での需要回復からランニングシューズのミッドソール用途での「エラストイル」の販売が徐々に回復し、「テクノゲル(ST-gel)」も、好調に推移しました。



「収益認識に関する会計基準」等を当期首から適用しており、当中間期の売上高は、適用前に比べて19億8千4百万円減少しております。

トピックス

CITE JAPAN 2021 アワード 環境部門でテクポリマー BIOが銀賞受賞

化粧品業界への貢献度、革新性、インパクトに優れた製品を選出する「CITE JAPAN 2021 アワード」の環境部門で、「テクポリマー BIO EFAシリーズ」が銀賞を受賞しました。

海洋プラスチック問題は環境問題のなかでも大きなウエイトを占めており、その問題解決に寄与する水中分解性ポリマーとして高く評価されました。本製品は、SDGs (持続可能な開発目標) の「14. 海の豊かさを守ろう」の達成に貢献し、当社の環境貢献製品 (サステナブル・スタープロダクト) に登録されています。当社は、持続可能な社会の実現に向け、環境貢献製品の創出を加速させていきます。

CITE JAPAN 2021 サイトURL : <https://www.citejapan.info/index.html>

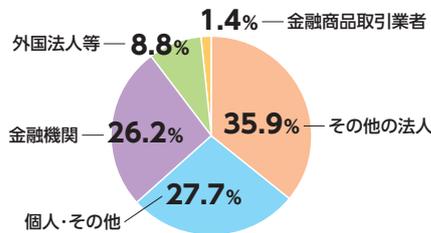


株式の状況 (2021年9月30日現在)

発行株式数および株主数

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
124,751,000株	46,988,109株	8,038名

所有者別分布状況 (所有比率)



(注) 所有比率は、自己株式(1,794千株)を控除して計算しております。

大株主

株主名	所有株式数 千株	所有比率 %
積水化学工業株式会社	9,855	21.81
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,219	7.12
第一生命保険株式会社	3,031	6.71
積水化成成品従業員持株会	1,851	4.10
積水樹脂株式会社	1,419	3.14
大同生命保険株式会社	1,418	3.14
株式会社エフピコ	1,348	2.98
株式会社三菱UFJ銀行	1,327	2.94
デンカ株式会社	1,250	2.77
積水化成成品取引先持株会	1,158	2.56

(注) 当社は自己株式を1,794千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

会社概要 (2021年9月30日現在)

会社の概要

商号(英文商号) 積水化成成品工業株式会社 (Sekisui Kasei Co.,Ltd.)
本社 大阪市北区西天満二丁目4番4号
設立年月日 1959年10月1日
資本金 16,533,476,176円
グループ従業員数 3,755名
営業品目
(セグメント別)

生活分野	市場・用途	主な製品・商品	工業分野	市場・用途	主な製品・商品
	農水産資材、食品包装材、流通資材、建築資材、土木資材			自動車部材、車輛部品梱包材、産業部材、産業包装材、電子部品材料、医療・健康用材料	
		エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、これら成形加工品 ESダンマット、エスレンブロックなど			ピオセラン、ライトロン、ネオミクロレン、セルベット、テクポリマー、テクノゲル、テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、ST-Eleveat これら成形加工品など

取締役および監査役

取締役	代表取締役社長	柏原正人
取締役	佐々木勝巳	
取締役	廣田徹治	
取締役	浅田英志	
取締役	古林育将	
社外取締役	馬場宏之	
社外取締役	窪田森雄	
社外取締役	北川尚人	

監査役	常勤監査役	竹腰浩次郎
	常勤監査役 <td>松本治</td>	松本治
	社外監査役 <td>福永年隆</td>	福永年隆
	社外監査役 <td>長濱守信三</td>	長濱守信三
	社外監査役 <td>高坂敬三</td>	高坂敬三

経営理念

われわれ積水化成成品グループは、人間尊重と相互信頼を基本に全員経営を実践し
“新しい幸せ”を目指して常にイノベーションをし続けます

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会 毎年3月31日、期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
TEL 0120-094-777 (通話料無料)



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づき、より多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字を採用しています。